

2016年度 第1四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2016年7月27日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

富士フイルムホールディングス株式会社 2016年度第1四半期決算について、
ご説明させていただきます。

2016年度第1四半期 業績 (2016年4月～6月)

(単位:億円)

	2015年度1Q	2016年度1Q	対前年度
売上高	5,909 100.0%	5,470 100.0%	-439 -7.4%
営業利益	362 6.1%	276 5.0%	-86 -23.8%
税金等調整前 四半期純利益	446 7.5%	217 4.0%	-229 -51.3%
当社株主帰属 四半期純利益	243 4.1%	112 2.0%	-131 -54.1%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	50.59円	24.76円	-25.83円
為替 : 米ドル	121円	108円	13円高
: ユーロ	134円	122円	12円高

<増減要因(対前年度)>

営業利益 為替:-97億円、原材料:+37億円

税金等調整前四半期純利益 為替差損益:-83億円、投資有価証券売却損益:-56億円

2

2016年度第1四半期は、フラットパネルディスプレイ材料事業、電子材料事業などで売上を伸ばしました。一方、為替の円高による383億円のマイナス影響などにより、売上は前年比7.4%減の5,470億円となりました。

また、営業利益については、各事業において収益性の改善を進めてきました。しかし為替の円高による97億円のマイナス影響などにより、前年比23.8%減の276億円となりました。

これに加えて、円高による外貨建て資産の評価替えなどで為替差損益のマイナス影響が対前年で83億円あったこと、及び、前年度に投資有価証券売却益として56億円を計上したことなどにより、税金等調整前四半期純利益は前年比51.3%減の217億円、当社株主帰属四半期純利益は前年比54.1%減の112億円となりました。

セグメント別：連結売上高／営業利益

(単位:億円)

売上高	1Q		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2015年度	2016年度			
イメージング	849	767	-82 (-9.7%)	-85	3 (+0.4%)
インフォメーション	2,181	2,078	-103 (-4.7%)	-167	64 (+2.9%)
ドキュメント	2,879	2,625	-254 (-8.8%)	-131	-123 (-4.3%)
合計	5,909	5,470	-439 (-7.4%)	-383	-56 (-0.9%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	1Q		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2015年度	2016年度			
イメージング	45	53	8 (+17.5%)	-28	36 (+79.9%)
インフォメーション	149	150	1 (+0.7%)	-49	50 (+33.5%)
ドキュメント	241	146	-95 (-39.2%)	-20	-75 (-30.9%)
全社/連結調整	-73	-73	0	0	0
合計	362	276	-86 (-23.8%)	-97	11 (+3.0%)

3

続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、前年比9.7%減の767億円、為替影響を除くと前年比0.4%増の852億円となりました。営業利益は、為替によるマイナス影響を受けたものの、前年比17.5%増の53億円となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、前年比4.7%減の2,078億円、為替影響を除くと前年比2.9%増の2,245億円となりました。営業利益は、為替によるマイナス影響を受けたものの、前年比0.7%増の150億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、前年比8.8%減の2,625億円、営業利益は前年比39.2%減の146億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
767	-82 (-9.7%)	53	8 (+17.5%)

- ・ フォトイメージングでは、為替の影響などにより売上は減少したが、インスタントカメラ“チェキ”、チェキ用フィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に堅調に推移。フォトブックなどの付加価値プリントビジネスも拡大。
- ・ 電子映像では、為替の影響などにより売上は減少したが、フラッグシップモデル「FUJIFILM X-Pro2」などの高級機へのシフトやアジア地域での拡販が進展。
- ・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売縮小などにより売上が減少。

為替の円高によるマイナス影響などにより減収となったが、デジタルカメラの高級機へのシフトなどにより増益

4

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、為替の影響などにより売上は減少しましたが、インスタントカメラ“チェキ”、チェキ用フィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に堅調に推移しました。

また、フォトブックやシャッフルプリントなどの付加価値プリントビジネスも拡大しました。

電子映像では、為替の影響などにより売上は減少したものの、3月に販売を開始したフラッグシップモデル「FUJIFILM X-Pro2」などの高級機へのシフトや、アジア地域での拡販が進みました。

光学デバイス分野では、スマートフォン用カメラモジュールの販売縮小などにより売上が減少しました。

他社に先駆けて発売した4Kカメラ対応の放送用ズームレンズは、画質面で高い評価を受けており、ワールドワイドでのシェア拡大を図ります。

イメージング ソリューション部門は、為替の円高による85億円のマイナス影響などにより減収となりましたが、デジタルカメラの高級機へのシフトなどにより増益となりました。

セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
2,078	-103 (-4.7%)	150	1 (+0.7%)

(単位:億円)

- ・メディカルシステムでは、為替の影響などにより売上は減少したが、医療ITなど成長分野での販売は堅調に推移。医薬品は低分子医薬品において後発医薬品の影響などを受けたがバイオ医薬品受託製造が好調に推移したことなどにより売上は前年並み。
- ・フラットパネルディスプレイ材料は、「WVフィルム」やIPS用フィルムなどの販売数量を拡大し売上も増加。
- ・産業機材では為替の影響などにより売上は減少したものの、「エクスクリア」の販売が好調に推移。電子材料は現像液や処理剤などの先端製品の販売が堅調に推移し、売上が増加。
- ・記録メディアは、業務用ビデオテープの総需要減や為替の影響などにより売上が減少したものの、独自技術を使用したデータストレージ用磁気テープの販売は堅調に推移。
- ・グラフィックシステムでは、為替の影響などにより売上は減少したがデジタルプリンティング機器などの販売は堅調に推移。

為替の円高影響などにより売上は減少
営業利益はフラットパネルディスプレイ材料、電子材料などの
販売拡大及び各事業の収益性改善などにより増益

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムでは、為替の影響などにより売上は減少しましたが、医療ITなど成長分野での販売は堅調に推移しました。

医薬品は、低分子医薬品において後発医薬品の影響などを受けたものの、バイオ医薬品受託製造が好調に推移したことなどにより売上は前年並みとなりました。また、研究開発においては、抗がん剤やアルツハイマー型認知症治療薬などのパイプラインの開発を着実に推進しています。

また再生医療では、前年度に連結子会社化したiPS細胞の開発・製造のリーディングカンパニーであるCellular Dynamics International社が、米国国立眼科研究所と加齢黄斑変性の治療に関する共同研究開発契約を締結しました。今後も、アカデミアや研究機関などとも連携した研究開発を行い、さらなる事業拡大を図っていきます。

ライフサイエンスでは、美白美容液「アスタリフトホワイト エッセンスインフィルト」などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

フラットパネルディスプレイ材料は、「WVフィルム」やIPS用フィルムなどの販売数量を拡大し、売上も増加しました。

産業機材では、為替の影響などにより売上は減少したものの、「エクスクリア」の販売が好調に推移しました。電子材料では現像液や処理剤などフォトソ周辺材料の先端製品の販売が堅調に推移し、売上が増加しました。

記録メディアは、業務用ビデオテープの総需要減少や為替の影響などにより売上が減少したものの、「BaFe (バリウムフェライト)磁性体」などの独自技術を使用したデータストレージ用磁気テープの販売は堅調に推移しました。当社は、データアーカイブ分野への拡販を進めると共に、データアーカイブサービスのさらなる普及によってビッグデータ時代の顧客ニーズに対応していきます。

グラフィックシステムでは、為替の影響などにより売上は減少しましたが、デジタルプリンティング機器などの販売が堅調に推移しました。

インフォメーション ソリューション部門は、為替の円高による167億円のマイナス影響などにより売上は減少しました。

一方営業利益は、為替の円高によるマイナス影響を受けたものの、フラットパネルディスプレイ材料や電子材料などの販売拡大及び各事業の収益性の改善などにより増益となりました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
2,625	-254 (-8.8%)	146	-95 (-39.2%)

- オフィスプロダクトは、国内のカラー複合機及び米国ゼロックス社向け輸出における販売台数が減少したものの、アジア・オセアニア地域での販売増により全体で販売台数は前年並み。
- オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でのモノクロ機が好調に推移したものの、米国ゼロックス社向け輸出を中心に全体で販売台数が減少。
- プロダクションサービスは、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が堅調に推移し、全体で販売台数が増加。
- グローバルサービスは、マネージド・プリント・サービスが好調に推移し、売上が増加。

米国ゼロックス社向け輸出の減少、為替の円高による
マイナス影響などにより売上は減少
利益は売上減少に加え、アジアローカル通貨安の影響などにより減益

6

ドキュメント ソリューション部門については、

米国ゼロックス社向けオフィスプリンターを中心に売上が減少したことに加え、為替の円高による131億円のマイナス影響などにより、売上は減少しました。

オフィスプロダクトは、前年度の国内コンビニエンスストアのマルチコピー機リニューアルの反動などによるカラー複合機の販売台数の減少、及び米国ゼロックス社向け輸出台数が減少したものの、

アジア・オセアニア地域における販売増加により、全体で販売台数は前年並みとなりました。

オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でのモノクロ機の販売が好調に推移したものの、米国ゼロックス社向け輸出を中心に全体で販売台数が減少しました。

プロダクションサービスについては、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が堅調に推移し、販売台数が増加しました。

グローバルサービスは、マネージド・プリント・サービスが好調に推移し、売上が増加しました。

営業利益は、売上減少に伴う利益の減少に加え、アジアローカル通貨安によるマイナス影響などにより減益となりました。

グローバルサービス等の成長領域の拡大や、アジア・オセアニア地域でのさらなる拡販を進めるとともに、経費削減及び原価改善施策の追加・加速等で収益性を高めていきます。

連結貸借対照表

					(単位:億円)				
	14年度末	15年度末	16年6月末	対15年度末		14年度末	15年度末	16年6月末	対15年度末
現金及び現金同等物	7,269	6,009	6,104	95	長短社債及び借入金	3,497	3,657	3,370	-287
受取債権	6,810	6,639	5,482	-1,157	支払債務	2,690	2,593	2,371	-222
棚卸資産	3,725	3,529	3,536	7	その他流動固定負債	4,705	4,548	4,164	-384
有価証券 その他流動資産	1,628	1,716	1,698	-18	負債計	10,892	10,798	9,905	-893
流動資産計	19,432	17,893	16,820	-1,073	株主資本計	22,327	20,545	19,651	-894
有形固定資産	5,274	5,341	5,187	-154	非支配持分	2,347	2,294	2,182	-112
営業権	5,050	5,069	4,821	-248	純資産計	24,674	22,839	21,833	-1,006
投資有価証券 その他資産	5,810	5,334	4,910	-424	負債・純資産合計	35,566	33,637	31,738	-1,899
固定資産計	16,134	15,744	14,918	-826	(単位:円)				
資産合計	35,566	33,637	31,738	-1,899	期末日為替レート	14年度末	15年度末	16年6月末	対15年度末
					米ドル	120	113	103	10円高
					ユーロ	130	128	114	14円高

次に、バランスシートについてご説明します。

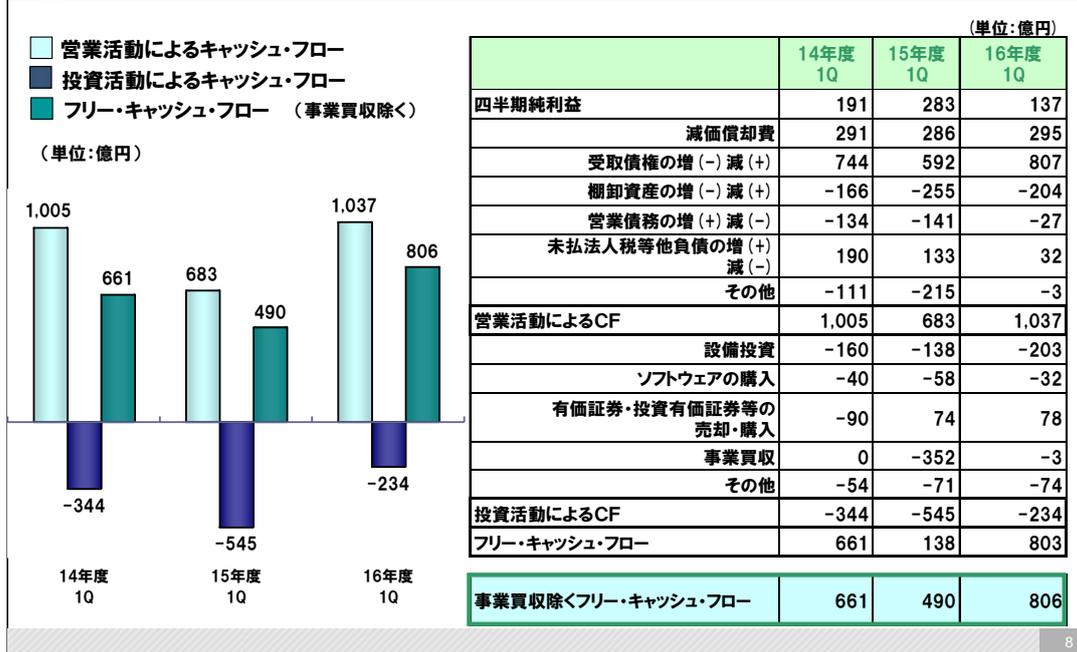
2016年6月末時点の資産合計は、

受取債権の減少などにより、2016年3月末時点と比べ、1,899億円減の3兆1,738億円となりました。

負債は893億円減の9,905億円、株主資本は894億円減の1兆9,651億円となりました。

流動比率は、前年末に比べ20.0ポイント増の313.7%、負債比率は2.2ポイント減の50.4%、株主資本比率は0.8ポイント増の61.9%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー



続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、1,037億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入などにより、234億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは803億円の収入となりました。

以上で、2016年度第1四半期決算の説明とさせていただきます。

2016年度 連結業績予想 (2016年7月27日時点)

(単位:億円)

	2015年度	2016年度	対前年度
売上高	24,916 100.0%	25,500 100.0%	584 +2.3%
営業利益	1,912 7.7%	2,200 8.6%	288 +15.1%
税金等調整前 当期純利益	1,945 7.8%	2,200 8.6%	255 +13.1%
当社株主帰属 当期純利益	1,233 4.9%	1,250 4.9%	17 +1.4%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	264.87円	277.47円	12.60円
ROE	5.8%	6~7%	—
為替 :米ドル	120円	110円	10円高
:ユーロ	133円	125円	8円高
銀価格(/kg)	60,000円	60,000円	—

*2016年度 営業利益 為替感応度 米ドル:8億円、ユーロ:8億円

9

続きまして、2016年度の連結業績予想ですが、
2016年4月27日に発表済みの予想からは変更しておりません。

急激な為替の円高など、経営環境は厳しさを増しておりますが、「VISION2016」最終年度の目標達成に向けて、第2四半期以降も引き続き成長戦略を推進するとともに、コスト削減も強力に進めていきます。

以上、2016年度第1四半期決算及び通期業績予想についてご説明いたしました。
ご静聴頂き、ありがとうございました。

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

2016年度第1四半期 決算説明会

参考資料

1Q 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	1Q		
	2015年度	2016年度	対前年度
フォトイメージング	583	526	-57 (-9.9%)
電子映像	163	159	-4 (-2.4%)
光学デバイス	103	82	-21 (-19.8%)
光学・電子映像	266	241	-25 (-9.1%)
合計	849	767	-82 (-9.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	1Q		
	2015年度	2016年度	対前年度
イメージング	45 [5.2%]	53 [6.8%]	8 (+17.5%)

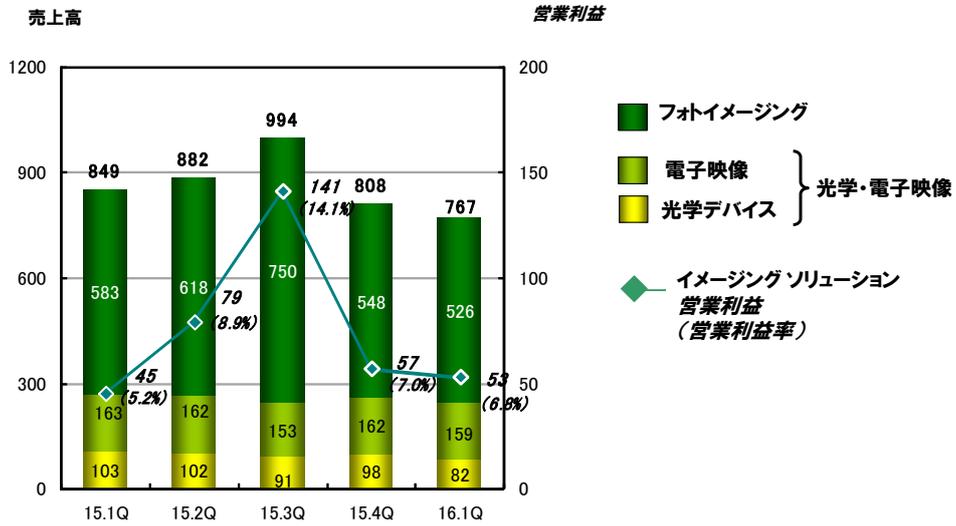
12

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージングソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

1Q 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	1Q		
	2015年度	2016年度	対前年度
ヘルスケア	880	831	-49 (-5.6%)
フラットパネル ディスプレイ材料	209	237	28 (+13.4%)
産業機材/電子材料	253	253	0 (-0.2%)
高機能材料	462	490	28 (+5.9%)
記録メディア	108	98	-10 (-9.2%)
グラフィックシステム	715	641	-74 (-10.4%)
その他	16	18	2 (+16.5%)
合計	2,181	2,078	-103 (-4.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

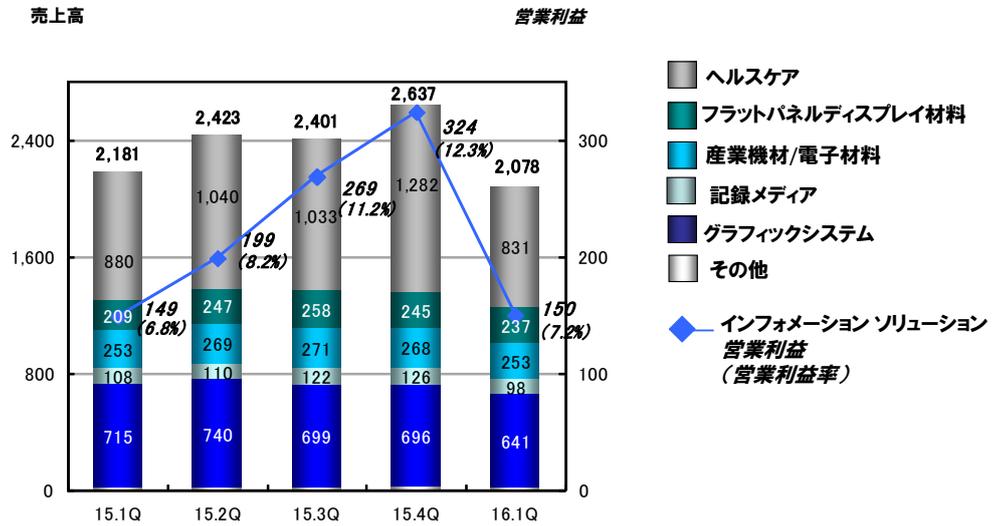
営業利益 [営業利益率]	1Q		
	2015年度	2016年度	対前年度
インフォメーション	149 [8.8%]	150 [7.2%]	1 (+0.7%)

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

1Q 業績

■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)

売上高	1Q		
	2015年度	2016年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,255	1,189	-66 (-5.3%)
オフィスプリンター	515	392	-123 (-23.9%)
プロダクションサービス	380	336	-44 (-11.6%)
グローバルサービス	440	446	6 (+1.4%)
その他	289	262	-27 (-9.2%)
合計	2,879	2,625	-254 (-8.8%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	1Q		
	2015年度	2016年度	対前年度
ドキュメント	241 [8.3%]	146 [5.5%]	-95 (-39.2%)

16

<当スライドは配付資料です>

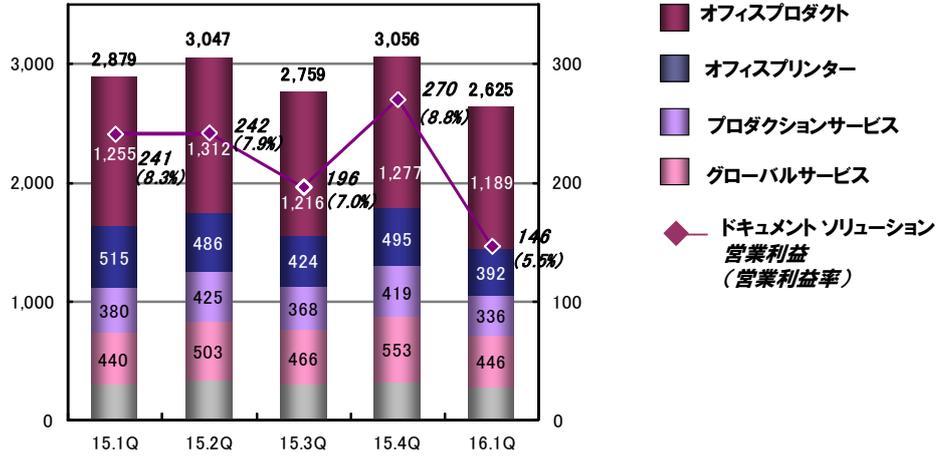
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

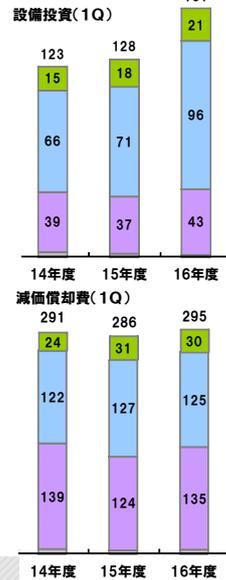
	2015年度1Q		2016年度1Q		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	38.4%	2,270	40.5%	2,217	-53	(-2.3%)
米州	21.3%	1,261	19.9%	1,086	-175	(-13.9%)
欧州	12.1%	712	11.7%	640	-72	(-10.2%)
内、中国	10.9%	646	11.6%	633	-13	(-2.0%)
アジア他	28.2%	1,666	27.9%	1,527	-139	(-8.3%)
海外	61.6%	3,639	59.5%	3,253	-386	(-10.6%)
合計	100.0%	5,909	100.0%	5,470	-439	(-7.4%)

18

<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート



(単位: 億円)

年度	1Q			通期		
	2014	2015	2016	2014	2015	2016 (予想)
イメージング	15	18	21	79	101	-
インフォメーション	66	71	96	293	393	-
ドキュメント	39	37	43	173	233	-
コーポレート	3	2	1	16	14	-
設備投資 ※	123	128	161	561	741	950
イメージング	24	31	30	111	129	-
インフォメーション	122	127	125	510	520	-
ドキュメント	139	124	135	587	545	-
コーポレート	6	4	5	21	20	-
減価償却費	291	286	295	1,229	1,214	1,200
有形固定資産の減価償却費 ※	157	152	141	651	659	680

※ドキュメントソリューション部門等のレンタル機器を除く。

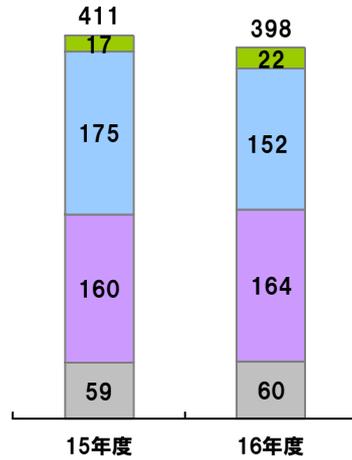
<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費及び一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

研究開発費(1Q)

(単位:億円)



年度	1Q		通期	
	2015	2016	2015	2016 (予想)
イメージング	17	22	80	-
インフォメーション	175	152	673	-
ドキュメント	160	164	632	-
コーポレート	59	60	245	-
研究開発費	411	398	1,630	1,700
<売上高比>	7.0%	7.3%	6.5%	6.7%
販売費及び一般管理費	1,545	1,513	6,224	-
<売上高比>	26.1%	27.7%	25.0%	-

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位:円)

	2015年度					2016年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
米ドル	121	122	122	115	120	108	110
ユーロ	134	136	133	128	133	122	125

原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2015年度					2016年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
銀	64	60	58	54	60	57	60

人員

(単位:人)

	2015.6末	2015.9末	2015.12末	2016.3末	2016.6末
連結	78,792	78,158	77,928	78,150	78,882

<当スライドは配付資料です>

パイプライン

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み	2014年3月承認(アビガン錠 [®])
			米国	Ph III 実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I 終了	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Study (ADCS) と臨床試験実施中
			日本	Ph II 実施中	京都大学IPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す
T-4288	マクロライド系抗菌薬	経口	日本	Ph II 実施中	
ITK-1	去勢抵抗性前立腺がん治療薬 <small>バイオ</small>	注射	日本	Ph III 実施中	
FF-10501	再発・難治性骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I 終了	
			米国	Ph I 実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
FF-10502	進行・再発膵がん/卵巣がん治療薬	注射	米国	Ph I 実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
			欧/日	Ph I 準備中	
FF-21101	進行・再発非小細胞肺癌/膵がん治療薬 (Armed抗体) <small>バイオ</small>	注射	米国	Ph I 実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
			欧/日	Ph I 準備中	
F-1311	前立腺がん診断薬(放射性医薬品)		日本	Ph II 実施中	
FF-10101	再発・難治性急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	非臨床試験実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクス(FKB)のFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、米国、その他でPh III 実施中。FKBとアストラゼネカ社のJVのFKB238(ベバシズマブバイオシミラー)は、欧州でPh I 実施中。

22

<当スライドは配付資料です>

2016年度 セグメント別業績予想 (2016年7月27日時点)

(単位:億円)

売上高	2015年度	2016年度	対前年度
イメージング	3,533	3,650	117
インフォメーション	9,642	9,850	208
ドキュメント	11,741	12,000	259
合計	24,916	25,500	584

*セグメント間取引消去後

営業利益	2015年度	2016年度	対前年度
イメージング	322	380	58
インフォメーション	941	1,020	79
ドキュメント	949	1,100	151
全社/連結調整	-300	-300	0
合計	1,912	2,200	288

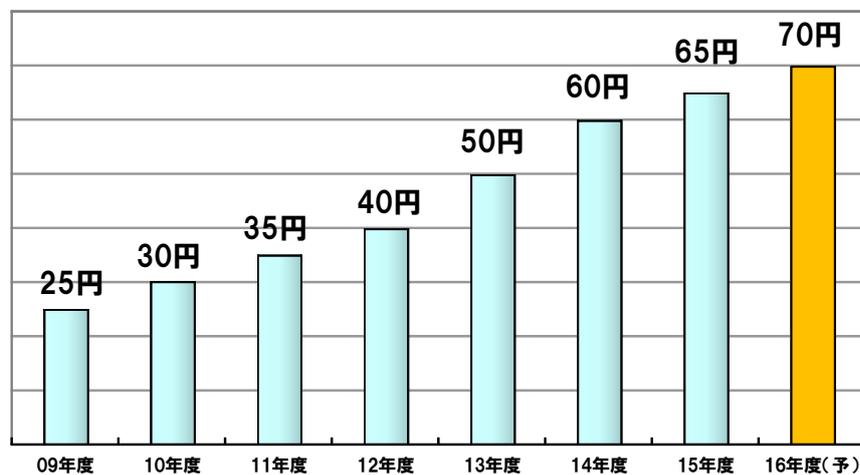
23

<当スライドは配付資料です>

株主還元

■配当金

2016年度の配当金は、7期連続増配となる対前年5円増配の70円/株を予定



<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2016

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2016/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2015年 12月 エレクトロニクスマテリアルズ事業説明会
- 2016年 3月 R&D説明会
- 2016年 5月 ドキュメント事業説明会

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

25

<当スライドは配付資料です>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>